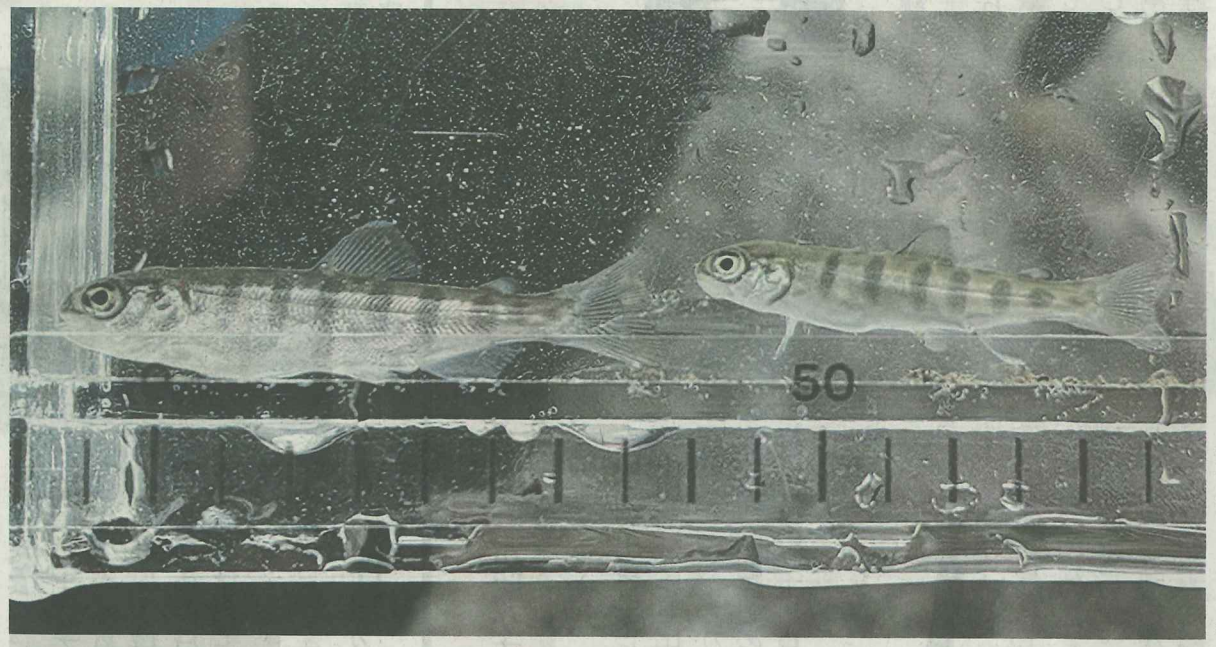
長浜・米川でビワマス稚魚発見

琵琶湖固有種2匹

長浜市中心市街地を流れる米川で8日、琵琶湖固有種のビワマスの稚魚2匹が見つかった。2024年4月に数十年ぶりに1匹が見つかって以来2年ぶり。昭和40年代には、魚がほとんどすめない「どぶ」だった米川の浄化の証しという。（松本芳孝）



調査には「米川かわまちづくり」に取り組み、ビワマスの産卵の場整備のため、河床を耕すなどの活動をしている長浜まちなか地域づくり連合会とNPO法人近江淡水生物研究所、一般参加の虎姫高校生徒、小中学生ら22人が参加。河口に近い約200㍍の区間で実施した。

長浜まちづくりセンターの尾崎栄治所長が全長約3・5㌢の稚魚1匹を見つけた後、さらに下流部で連合会の地域活力プランナー、田中省吾さんが全長5㌢の1匹を見つけた。

田中さんは「心の中で少し米川のビワマス生育環境に疑問、不安があったが、一掃された。将来の米川にたくさんのビワマスがすむことが期待できる」と喜んだ。

連合会などは21日午前10時から曳山博物館（元浜町）周辺の米川で、児童を対象にした初のビワマス稚魚放流イベントをする。児童は計100匹程度を放すほか、琵琶湖を回遊し、遡上するビワマスに向けた手紙も書く。手紙は3年後、児童の元に届く。参加申し込みはQRコードから。

上米川で見つかったビワマスの稚魚
下ビワマスの稚魚調査団の皆さん＝いずれも長浜市で

地域づくり連合会など調査　21日、児童向け放流イベント

びわこ版

がんばります

ぼくは、卓球をがんばりたいです。なぜなら弱くて練習でもふざけてしまったところがあるので、ふざけずにがんばって、うまくなりたいです。

米原市春照小5年　鈴木那亜さん

BBCびわ湖

◇ワンにゃフル物語SP（後6・25～7・45）＝動物たちが見せる驚きの行動や心温まる瞬